



HIROFUMI TANGE

内閣府が6月11日に発表した国内総生産（GDP）の2009年1～3月期の改定値は、物価変動の影響を除いた実質成長率で、前期比3.8%減、年率換算で14.2%減となり、2期連続で戦後最悪のマイナス成長となりました。それでも翌12日には東京株式市場で日経平均株価が反発し、8カ月ぶりに終値で1万円台を回復。昨秋の金融危機で広がった世界同時不況に対する悲観論が後退し、実体経済の回復に対する期待感が高まってきているようです。

実際、日米の経済動向につき、景気後退が緩やかになり最悪期を脱しつつあるという見方がある反面、民間設備投資の先行指標とされる日本国内の機械受注は、内閣府が10日に発表した4月の統計では前月比5.4%減（季節調整値）となり2カ月連続で前月を下回っています。加えて失業者の増加など雇用情勢の不安定要因があるため、景気の底打ちを確認し本格回復を宣言するには、依然として難題が山積していると考えなければならないでしょう。

なお、東京商工リサーチ（TSR）が先般発表した全国の企業倒産動向によれば、2009年5月度の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は1,203件となり、最近の1年間で最小件数で、1年ぶりに前年同月を下回りました。こうして全

## キャリアオ技研(株)の3次元CAD教育へ下

**丹下博文氏**  
1950年、愛知県生まれ。早稲田大学法学部卒業。同大学院法学研究科修士課程修了。主に倒産と企業再生の研究。米ロンドン大学経営大学院修士課程修了。同大学院客員研究員。UCA（米カリフォルニア大学経営大学院）および社会公共政策大学院客員研究員などを歴任。現在、愛知学院大学大学院経営学研究所教授。2003年に「環境経営学」を創設し、同大学学長に就任。著書「環境経営学」(日経出版)、「天変地の潮流(朝陽堂)」、「企業経営のグローバル化研究」(企業経営の社会性研究)、「地球環境辞典(編者)」(以上中央経済社)など多数。

国的に企業倒産の減少傾向が広がったという見方が示されているものの、資金力の脆弱な中小企業に景気拡大が波及するにはタイムラグがある点などを考慮すると、金融機関の貸出姿勢に変化がなければ、夏場を境に再び増勢をたどる可能性もあると指摘されているのです。

中小企業の倒産に関しては、金型の設計・生産工程をITを活用して自動化した世界的ベンチャー企業として有名な(株)インクスが、今年2月に約150億円の負債を抱えて倒産（民事再生法の適用申請）したことが報じられ、3次元CADによる委託設計やモデリングを手がける業界に大きな波紋が広がりました。

「3次元CAD」といえば、中部圏には2001年に創業された堅実経営のベンチャー企業で、3次元CADによる設計（デジタル・エンジニアリング）だけでなく、最近になり3次元CAD対策講座などによる教育事業にも注力している「キャリアオ技研(株)」（代表取締役社長は富田茂氏）があり、その動向が注目されます。

（続く）

<p><b>キャリアオ技研株式会社</b> 〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-38-2 オーキッドビル4F 電話 (052) 627-0495</p>
---



HIROFUMI TANGE

本年2月に倒産した世界的ベンチャー企業の(株)インクスは、1990年に創業し、2008年12月末には資本金8,715万円、売上高150億円、従業員数は単体で400名、連結では1,400名にも達し、05年には第1回「ものづくり日本大賞」の経済産業大臣賞を受賞するほど3次元CADを用いた技術力では定評がありました。

この経営破綻の主な原因は、最大の得意先だった自動車業界からの受注が昨秋以降に始まった世界同時不況の影響で急減し、資金繰りが急速に逼迫したからだ、と報じられており、東京商工リサーチ情報部取材班からは、中小企業が陥りやすい「設備投資貧乏」、すなわち新技術開発に夢中になり設備投資にカネをかけすぎたことが原因と指摘されています。

つまり日本が世界に自慢できるさまざまな技術は中小企業のうえに成り立っているという側面があり、とくに創造的な中小企業といえるベンチャー企業は新技術や新市場の開発にチャレンジするのが宿命といえます。しかし大手企業は中小企業に技術革新は要求するが、開発投資のためのカネを出そうとしない、という現実があります。そこで中小企業は採算を無視した設備投資を行うことで技術革新を追求する嫌いがあり、これが設備投資貧乏に陥る落とし穴、と説明

## キャリアオ技研(株)の3次元CAD対策講座へ下

**丹下博文氏**  
1950年、愛知県生まれ。早稲田大学法学部卒業。同大学院法学研究科修士課程修了。主に倒産と企業再生の研究。米ロンドン大学経営大学院修士課程修了。同大学院客員研究員。UCA（米カリフォルニア大学経営大学院）および社会公共政策大学院客員研究員などを歴任。現在、愛知学院大学大学院経営学研究所教授。2003年に「環境経営学」を創設し、同大学学長に就任。著書「環境経営学」(日経出版)、「天変地の潮流(朝陽堂)」、「企業経営のグローバル化研究」(企業経営の社会性研究)、「地球環境辞典(編者)」(以上中央経済社)など多数。

されているのです。

ところで、中部圏で3次元CADを用いた設計（デジタル・エンジニアリング）の分野では今や大手といえるベンチャー企業のキャリアオ技研株式会社（代表取締役社長は富田茂氏）は、高い技術開発力を追求していると同時に堅実経営も志向しており、最近では3次元CAD教育に熱心に取り組んでいる動向が注目されます。たとえば愛知学院大学のエクステンションセンターにおいて「3次元CAD対策講座」を担当し、文系学生にも3次元CAD技術の普及を目指しているわけです。

実際、同大学の文系学生に対し3次元CAD対策講座に関するアンケート調査を実施したところ、次のような興味深い結果が見られました。それは「CADは将来の自分に役立つと思いますか」という質問に「大変役立つと思う」と回答した学生（回答総数は475）が22%、「役立つと思う」が51%もあり、両方を合わせると73%に達している点です。

日本経済を支える技術革新は文系学生も担うことができると実感していただいです。

<p><b>キャリアオ技研株式会社</b> 〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-38-2 オーキッドビル4F 電話 (052) 627-0495</p>
---